

◎障害者福祉の経費

障害者社会参加促進事業 【 障害者福祉課 】

【総合計画上の位置づけ】

健やかで心豊かに暮らせるまち

健康福祉:すべての市民が健康で安心して生活を送ることのできる環境が整っているまち

【事業の目的】

対象 障害者等

意図 在宅の障害者等の社会参加及び外出を支援するため。

効果 障害者等の社会参加の促進を図る。

【事業の内容】

(1) 障害者社会参加促進事業

- ・聴覚障害者等の依頼により、手話通訳者等を派遣し、聴覚障害者等の便宜を図った。
- ・手話通訳者を週3回・半日・障害者福祉課窓口に配置した。
- ・手話講習会初級・中級・養成講座等を開催した。
- ・障害者ふれあいフェスティバルを開催した。
- ・障害者が自ら運転する自動車を改造する場合に自動車改造費の助成を行った。
- ・障害の程度が1級から4級までの下肢・体幹・内部障害、あるいは1級の上肢の障害を有する方に自動車運転訓練費の助成を行う。(平成20年度利用実績なし)
- ・在宅の重度障害者に福祉タクシー利用券・福祉自動車燃料費助成券・バス共通カード等を交付し利用料等の助成を行った。

【中事業に含まれる実施計画事業】

福祉タクシー券・ガソリン券の交付(4-1-2-④)

【事業費】

(単位:千円)

当初予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
39,918	39,918	35,821		4,097

主な支出内訳

・ 障害者社会参加促進事業				
手話通訳嘱託員報酬 1人				781
手話通訳者等派遣報償費				1,617
手話講習会等開催委託料				1,308
障害者ふれあいフェスティバル開催等委託料				358
身体障害者自動車改造費助成費				234
身体障害者自動車運転手訓練費助成費				0
福祉タクシー利用料金等助成費				30,332

主な特定財源

・ 国県支出金				2,339
---------	--	--	--	-------

福祉タクシー利用料金等助成事業利用状況

タクシー利用券	延 33,948 枚	1,077 人	16,974 千円
自動車燃料費助成券	延 7,614 枚	728 人	11,415 千円
バス共通カード購入助成券	延 370 枚	211 人	1,850 千円
福祉有償運送助成券	延 315 枚	7 人	93 千円
		合計	30,332 千円

平成21年度事務事業評価シート

事務事業 No./名称	■サービス部門 健福-27 障害者社会参加促進事業 □支援部門						
事務事業 単 位	タイムス コード及び 個別事業 名	0026 障害者社会参加促進事業					
主管課	障害者福祉課		関連課				
分野名	健康福祉						
目標 (目標値)	福祉運営事業の充実を図る						
人口等の データ	データ区分	20年度	19年度	18年度	備 考 ・各年4月1日		
	人 口	176,484人	175,902人	175,051人			
	世 帯 数	77,430世帯	76,536世帯	75,611世帯			
運営資源 状 況		6,231人	5,969人	5,472人			
	決算値	35,821千円	34,047千円	31,923千円			
	(国・県)	2,339千円	2,138千円	2,427千円			
	(負担金等)						
	(一般財源)	33,482千円	31,909千円	29,496千円			
	人員配置数	1.0人	1.0人	1.1人			
	人件費	9,393千円	9,521千円	10,486千円			
協働の パートナー	鎌倉市手話・要約筆記講習会実行委員会	鎌倉市手話・要約筆記講習会実行委員会	鎌倉市手話講習会実行委員会				
事務事業 運営経費	総事業費	45,214千円	43,568千円	42,409千円			
	市民1人当 りの経費	256円	248円	242円			
	対象者1人 当りの経費	7,256円	7,299円	7,750円			
20年度事務事業の変更点(新規・廃止・縮小した個別事業)/事業仕分けの視点による妥当性の評価							
個別事業名	変更額(千円)	事業の変更点・変更理由		妥当性※	※妥当性の評価 ① 必要性なし ② 民間 ③ 国・県 ④ 現行どおり(鎌倉市)		
タクシー券・ガソリン券・バス カード助成事業	2,290	福祉有償運送事業への利用対象範囲拡充に伴う増加		④			
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
タクシー券・ガソリン券・バス カード助成事業	○	目標値	29,980,800円	34,248,000円	33,746,000円	33,746,000円	
		実績値	29,834,280円	30,331,700円			
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
評価 ◎:目標を達成 ○:目標に向かって前進している △:横ばい ×:後退している							
ベンチマーク(県内外自治体や民間団体との比較値)							
団体名							

平成21年度事務事業評価シート

創意・工夫・課題等改善状況	課題・問題点	(20年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) タクシー券助成事業については、交付枚数の増加要望に対する対応が求められる。また、利用者範囲の拡大として福祉有償運送事業への利用可能としてほしいとの要望に対応するため調査・検討していく。 聴覚障害者への情報保障を行うこれらの通訳者の拡充を図るため、手話通訳・要約筆記講習会の開催とその受講者数の増加を推進していくための周知・啓発を図る必要がある。
	創意・工夫・課題等の改善点 20年度の成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) タクシー券・ガソリン券・バスカードに加えて新たな選択肢として平成20年4月から福祉有償運送事業も利用範囲拡充を図り、いずれかひとつの選択として交付をはじめた。障害者の社会参加事業として、利用しやすいサービスであるため、ニーズはとても高く、社会参加促進のため事業の充実を図った。 また、手話通訳・要約筆記派遣・手話通訳者の窓口設置、手話・要約筆記通訳者養成のための講習会の開催等は、聴覚障害者から必要不可欠な事業として評価を得ている。障害者の社会参加を促進していく事業として、聴覚障害者の要望は強く、受講者の拡充に向け、初級者から上級者までの講習会の開催内容等の充実を図った。
	未解決の課題・問題点	(20年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) タクシー券助成事業については、利用者の利便性を考えた交付方法を検討してほしいとの要望に対応するため調査・検討していく。 聴覚障害者への情報保障を行うこれらの通訳者の拡充を図るため、手話通訳・要約筆記講習会の開催とその受講者数の増加を推進していくための受講者の拡充に向けた取り組みを図っていく。
	今後の方針(対応・改善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) 交付枚数の増加と利用範囲の拡大に向けた取り組みについては、一定の成果が図られたが、利用者の利便性を考えた交付方法を検討してほしいとの要望に対応するため調査・検討していく。 また、手話通訳・要約筆記講習会の開催とその受講者数の増加を図るためそれぞれの実行委員会と調整・協議して事業の推進を行う。

一次評価(課長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 C:統合又は縮小 E:事業完了 B:現状のまま継続 D:廃止又は休止	A	改善の必要性 有
	タクシー券・ガソリン券・バスカードの利用を加え、福祉有償運送事業への利用範囲の拡大を図ったが、今後もサービス利用者のニーズに即した改善を検討していく。また、手話通訳・要約筆記講習会の開催とその受講者数の増加を図っていく。		
担当課長氏名:		障害者福祉課長 茶木 和夫	

二次評価(部長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 C:統合又は縮小 E:事業完了 B:現状のまま継続 D:廃止又は休止	A	改善の必要性 有
	タクシー券等助成事業及び手話通訳・要約筆記講習会事業など利用者のニーズに対応した事業を実施していくために、今後も障害者の社会参加促進の事業の充実を図る。		
担当部名	健康福祉部	部長名	石井 和子